

平成24年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	東北大学	整理番号	MO1
1. 全体責任者  (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。  (ふりがな) さとみ すすむ 氏名・職名 里見 進 (東北大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) はなわ きみお 氏名・職名 花輪 公雄(東北大学・理事(教育・学生支援・教育国際交流担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) ゆがみ ひろお 氏名・職名 湯上 浩雄(東北大学大学院工学研究科・副研究科長(教育担当)・教授)		
4. 類型	M <複合領域型(安全安心)>		
5.	プログラム名称	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	
	英語名称	Inter-Graduate School Doctoral Degree Program on Science for Global Safety	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(工学)、博士(理学)、博士(環境科学)、博士(文学)、博士(情報科学)、博士(医工学)もしくは博士(学術) 付記する名称: グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		
7. 主要分科	(① 社会・安全システム科学)	(② 地球惑星科学)	(③ 総合工学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入
8. 主要細目	(① )	(② )	(③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	理学研究科地学専攻・地球物理学専攻・天文学専攻、工学研究科機械システムデザイン工学専攻・土木工学専攻・都市・建築学専攻・ナノメカニクス専攻・航空宇宙工学専攻・バイオロボティクス専攻・量子エネルギー工学専攻・電気エネルギーシステム専攻・化学工学専攻・技術社会システム専攻、環境科学研究科先端環境創成学専攻・先進社会環境学専攻、医工学研究科医工学専攻、災害科学国際研究所、流体科学研究所、東北アジア研究センター、情報科学研究科応用情報科学専攻・人間社会情報科学専攻、経済学研究科経済経営学専攻、法学研究科法政理論研究専攻、文学研究科文化科学専攻・人間科学専攻・歴史科学専攻、学術資源研究公開センター		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、同和ホールディングス、米国地質調査所、スタンフォード大学		

(機関名:東北大学 類型:複合領域型(安全安心) プログラム名称:グローバル安全学トップリーダー育成プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 66 名			
外国人の人数	3 人	[ 4.5 %]	女性の人数 4 人 [ 6.1 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 93.9 %]			
プログラム実施大学に属する者	62 人	プログラム実施大学以外に属する者	4 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者	46 人	そのうち、大学等以外に属する者	3 人

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 花輪 公雄	ハナワ キミオ		理事(教育・学生支援・教育国際交流担当)	海洋物理学 理学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 湯上 浩雄	ユガミ ヒロオ		工学研究科・機械システムデザイン工学専攻・ 教授(副研究科長)	エンジニアリング学 工学博士	プログラム統括担当者
大谷 栄治	オオタニ エイジ		理学研究科・地学専攻・教授	地球物性学 理学博士	「安心・安全を知る」ユニット長、プログラム運営委員：地球物性学に関する教育研究と人材育成
今村 文彦	イマムラ フミヒコ		災害科学国際研究所・教授(所長) (工学研究科・土木工学専攻兼務)	津波工学、防災科 学 工学博士	「安心・安全を創る」ユニット長、プログラム運営委員：防災科学に関する教育研究と人材育成
源栄 正人	モトサカ マサト		災害科学国際研究所・教授 (工学研究科・都市・建築学専攻兼務)	地震工学・耐震工 学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、入試・学位授与審査委員：地震工学の教育研究と人材育成
奥村 誠	オクムラ マコト		災害科学国際研究所・教授 (工学研究科・土木工学専攻兼務)	国土計画・交通工 学 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、教育・カリキュラム委員：国土計画の教育研究と人材育成
邑本 俊亮	ムラモト トシアキ		災害科学国際研究所・教授 (情報科学研究科・人間社会科学専攻兼務)	認知心理学 博士(行動科学)	「安全・安心に生きる」ユニット、教育カリキュラム委員：認知心理学の教育研究と人材育成
越村 俊一	コシムラ シュンイチ		災害科学国際研究所・教授 (工学研究科・土木工学専攻兼務)	自然災害科学 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、広報委員：減災社会の構築に向けた実践的リーダーの育成
遠田 晋次	トオダ シンジ		災害科学国際研究所・教授 (理学研究科・地学専攻兼務)	活断層地球物理学 博士(理学)	「安心・安全を知る」ユニット、災害科学に関する教育研究と人材育成
小野 裕一	オノ ユウイチ		災害科学国際研究所・教授	国際防災政策 Ph.D	「安心・安全を生きる」ユニット、災害科学に関する教育研究と人材育成
後藤 和久	ゴトウ カズヒサ		災害科学国際研究所・准教授 (理学研究科・地学専攻兼務)	津波堆積学 博士(理学)	「安心・安全を知る」ユニット、災害科学に関する教育研究と人材育成
今泉 俊文	イマズミ トシフミ		理学研究科・地学専攻・教授 (災害科学国際研究所兼務)	変動地形学 理学博士	「安心・安全を知る」ユニット、教育カリキュラム委員：活断層の評価教育研究と人材育成
趙 大鵬	チョウ タイホウ		理学研究科・地球物理学専攻・教授 (災害科学国際研究所兼務)	地震学・火山物理 学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、入試・学位授与審査委員：地震学の教育研究と人材育成
佐藤 源之	サトウ モトユキ		東北アジア研究センター・教授 (災害科学国際研究所兼務)	計測工学 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、広報委員：計測工学の教育研究と人材育成
西村 太志	ニシムラ タケシ		理学研究科・地球物理学専攻・教授	地震学、火山物理 学 博士(理学)	「安全安心を知る」ユニット、教育・カリキュラム委員：地震学の教育研究と人材育成
日野 亮太	ヒノ リョウタ		理学研究科・地球物理学専攻・准教授	海底地震学 博士(理学)	「安全安心を知る」ユニット、広報委員：地震が「付加」と津波防災科学の教育研究と人材育成
早坂 忠裕	ハヤサカ タダヒロ		理学研究科・地球物理学専攻・教授(研究科 長)	大気物理学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、プログラム運営委員：大気物理学の教育研究と人材育成
松澤 暢	マツザワ トオル		理学研究科・地球物理学専攻・教授	地震学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、産学連携委員：地震災害の教育研究と人材育成
小原 隆博	オハラ タカヒロ		理学研究科・地球物理学専攻・教授 (災害科学国際研究所兼務)	地球惑星放射線物 理学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、教育・カリキュラム委員：地球惑星放射線物理学の教育研究と人材育成
須賀 利雄	スガ トシオ		理学研究科・地球物理学専攻・教授 (災害科学国際研究所兼務)	海洋物理学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、教育・カリキュラム委員：海洋物理学の教育研究と人材育成
中村 智樹	ナカムラ トモキ		理学研究科・地学専攻・教授	惑星科学 博士(理学)	「安全安心を知る」ユニット、教育・カリキュラム委員：科学的視点に立った安全安心教育
掛川 武	カケガワ タケシ		理学研究科・地学専攻・教授	地球化学 Ph. D.	「安全安心を知る」ユニット、プログラム運営委員：地球化学の教育研究と人材育成
中村 美千彦	ナカムラ ミチヒコ		理学研究科・地学専攻・教授	火山学・岩石学 博士(理学)	「安全安心を知る」ユニット、産学連携委員：火山学の教育研究と人材育成
井龍 康文	イリュウ ヤスフミ		理学研究科・地学専攻・教授	炭酸堆積学、古生 物学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、教育・カリキュラム委員：古生物学の教育研究と人材育成
山田 亨	ヤマダ トオル		理学研究科・天文学専攻・教授	観測天文学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、広報委員：天文学の教育研究と人材育成

(機関名:東北大学 類型:複合領域型(安全安心) プログラム名称:グローバル安全学トップリーダー育成プログラム)

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
三浦 英生	ミウラ ヒデオ		工学研究科・先端材料強度科学研究センター・教授(センター長・工学研究科・ナノメカニクス専攻兼務)	破壊予知と制御 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、プログラム運営委員：材料・安全学の教育研究と人材育成
久田 真	ヒサダ マコト		工学研究科・土木工学専攻・教授	土木材料学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、プログラム運営委員：土木材料学の教育研究と人材育成
植松 康	ウエマツ ヤスシ		工学研究科・都市・建築学専攻・教授(副研究科長)	構造安全システム 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、プログラム運営委員：構造安全システムの教育研究と人材育成
厨川 常元	クリヤガワ ツネモト		医工学研究科・医工学専攻・教授(工学研究科・機械システムデザイン工学専攻兼務)	ナノ精度加工学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、産学連携委員：ナノ精度加工学の教育研究と人材育成
祖山 均	ソヤマ ヒトシ		工学研究科・ナノメカニクス専攻・教授	知的計測評価学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、産学連携委員：知的計測学の教育研究と人材育成
吉田 和哉	ヨシダ カズヤ		工学研究科・航空宇宙工学専攻・教授	宇宙ロボティクス 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、入試・学位授与審査委員：宇宙ロボティクスの教育研究と人材育成
渡邊 豊	ワタナベ ユタカ		工学研究科・量子エネルギー工学専攻・教授	保全工学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、教育・カリキュラム委員：リスクベース設備管理に関する教育研究と人材育成
小菅 一弘	コスゲ カズヒロ		工学研究科・バイオロボティクス専攻・教授	ロボティクス 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、入試・学位授与審査委員：共存・共生するロボットの教育研究と人材育成
津田 理	ツダ マコト		工学研究科・電気エネルギーシステム専攻・教授	超電導応用 電力システム 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、広報委員：超電導応用電力システムの教育研究と人材育成
中田 俊彦	ナカタ トシヒコ		工学研究科・技術社会システム専攻・教授	材料・経済工学 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、教育・カリキュラム委員：エネルギー経済学の教育研究と人材育成
高橋 信	タカハシ マコト		工学研究科・技術社会システム専攻・教授	原子力工学・認知 工学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、原子力工学の教育研究と人材育成
青木 秀之	アキ ヒデユキ		工学研究科・化学工学専攻・教授	化学工学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、産学連携委員：材料・環境技術の教育研究と人材育成
陳 迎	チン イ		先端材料強度科学研究センター・教授(工学研究科・ナノメカニクス専攻兼務)	計算材料科学 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、広報委員：材料信頼性分野の教育研究と人材育成
田所 諭	タカトコ ユン		情報科学研究科・応用情報科学専攻・教授(災害科学国際研究所兼務)	減災ロボティクス 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、産学連携委員：減災ロボティクスの教育研究と人材育成
河野 達仁	コウノ タツヒト		情報科学研究科・人間社会情報科学専攻・教授	都市・地域経済学・交通経済学・費用便益分析 博士(学術)	「安全安心を創る」ユニット、教育・カリキュラム委員：都市・地域経済学の教育研究と人材育成
田中 真美	タナカ マミ		医工学研究科・医工学専攻・教授(工学研究科・バイオロボティクス専攻兼務)	医療福祉工学 博士(工学)	「安全安心を創る」ユニット、広報委員：医療福祉工学の教育研究と人材育成
小原 拓	オハラ タク		流体科学研究所・教授	分子熱工学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、教育・カリキュラム委員：分子熱工学の教育研究と人材育成
寒川 誠二	サムカワ セイジ		流体科学研究所・教授	ナノプロセス工学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、産学連携委員：ナノプロセス工学の教育研究と人材育成
西 弘嗣	ニシ ヒロシ		学術資源研究公開センター総合学術博物館・教授	地質学・古生物学 理学博士	「安全安心を知る」ユニット、広報委員：災害教育・アウトリーチシステムの構築
田路 和幸	トウジ カズユキ		環境科学研究科・先進社会環境学専攻・教授	環境機能素材工学 理学博士	「安全安心を創る」副ユニット長、プログラム運営委員：環境機能材料の教育研究と人材育成
土屋 範芳	ツチヤ ノリヨシ		環境科学研究科・先進社会環境学専攻・教授	地圏環境科学 地殻流体科学 工学博士	「安全安心を創る」ユニット、入試・学位授与審査委員：資源・エネルギー問題の安全・安心を支えるリーダー養成
高浦 康有	タカウラ ヤスナリ		経済学研究科・経済経営学専攻・准教授	経営学原理学 修士(商学)	「安全安心に生きる」ユニット、教育・カリキュラム委員：経営学原理学の教育研究と人材育成
稲場 馨	イナバ カオル		法学研究科・法政理論研究専攻・教授	行政法学 博士(法学)	「安全安心に生きる」ユニット、教育・カリキュラム委員：行政法学の教育研究と人材育成
佐藤 嘉倫	サトウ ヨシミチ		文学研究科・人間科学専攻・教授	行動科学、社会学 博士(文学)	「安全安心に生きる」ユニット長、プログラム運営委員：行動科学の教育研究と人材育成
村山 達也	ムラヤマ タツヤ		文学研究科・文化科学専攻・准教授	フランス近現代哲学 博士(哲学)	「安全安心に生きる」ユニット、広報委員：フランス近現代哲学の教育研究と人材育成
戸島 貴代志	トシマ キヨシ		文学研究科・文化科学専攻・教授	西欧現代哲学、倫理学 文学博士	「安全安心に生きる」ユニット、教育・カリキュラム委員：西欧現代哲学の教育研究と人材育成
原 壱	ハラ サク		文学研究科・文化科学専攻・准教授	科学哲学 哲学博士	「安全安心に生きる」ユニット、教育・カリキュラム委員：科学哲学の教育研究と人材育成
鹿又 喜隆	カノマタ ヨシタカ		文学研究科・歴史科学専攻・准教授	考古学 博士(文学)	「安全安心に生きる」ユニット、教育・カリキュラム委員：考古学の教育研究と人材育成
升谷 五郎	マシヤ ゴロウ		工学研究科・工学教育院・特任教授	航空宇宙工学、推進工学 工学博士	「安全安心を創る」、プログラム運営委員、プログラム専任教員：航空宇宙工学に関する教育と人材育成
海野 徳仁	ウミノ ノリヒト		理学研究科・地震・噴火予知研究センター・特任教授	地震学 理学博士	「安全安心を知る」、プログラム運営委員、プログラム専任教員：地震学に関する教育と人材育成

(機関名: 東北大学 類型: 複合領域型(安全安心) プログラム名称: グローバル安全学トップリーダー育成プログラム)



## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有・〇無)	
プログラム募集定員数(実数)	—	30人	30人	30人	
① 応募学生数	—	67人	41人	43人	
	うち留学生数	—	4人	11人	15人
	うち自大学出身者数	—	55人(1人)	24人(0人)	27人(2人)
	うち他大学出身者数	—	12人(3人)	17人(10人)	16人(13人)
	うち社会人学生数	—	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	—	4人(0人)	8人(3人)	9人(5人)	
② 合格者数	—	34人	34人	26人	
	うち留学生数	—	1人	9人	8人
	うち自大学出身者数	—	29人(0人)	20人(0人)	18人(1人)
	うち他大学出身者数	—	5人(1人)	14人(10人)	8人(7人)
	うち社会人学生数	—	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	—	2人(0人)	8人(3人)	7人(3人)	
③ ②のうち受講学生数	—	32人	30人	25人	
	うち留学生数	—	1人	8人	7人
	うち自大学出身者数	—	27人(0人)	17人(0人)	18人(1人)
	うち他大学出身者数	—	5人(1人)	13人(8人)	7人(6人)
	うち社会人学生数	—	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
うち女性数	—	2人(0人)	6人(2人)	7人(3人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	—	1.97倍	1.21倍	1.65倍	
充足率(合格者数/募集定員)	—	113.00%	113.00%	87.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数  
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成24年度選抜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
うち留学生数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
うち自大学出身者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
うち他大学出身者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
うち社会人学生数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
うち女性数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
平成25年度選抜							19	13	0	0	0	32	0	11	13	0	0	24	0	1	10	12	0	23		
うち留学生数							1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1		
うち自大学出身者数							17	10	0	0	0	27	0	9	10	0	0	19	0	0	9	9	0	18		
うち他大学出身者数							2	3	0	0	0	5	0	2	3	0	0	5	0	1	1	3	0	5		
うち社会人学生数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数							0	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0	2	0	2		
平成26年度選抜													21	7	1	1	0	30	1	18	6	2	0	27		
うち留学生数													6	1	0	1	0	8	1	6	0	1	0	8		
うち自大学出身者数													13	4	0	0	0	17	0	10	4	0	0	14		
うち他大学出身者数													8	3	1	1	0	13	1	8	2	2	0	13		
うち社会人学生数													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数													4	1	1	0	0	6	0	4	1	1	0	6		
平成27年度選抜																			16	7	2	0	0	25		
うち留学生数																			4	2	1	0	0	7		
うち自大学出身者数																			12	6	0	0	0	18		
うち他大学出身者数																			4	1	2	0	0	7		
うち社会人学生数																			0	0	0	0	0	0		
うち女性数																			6	1	0	0	0	7		
計	0	0	0	0	0	0	19	13	0	0	0	32	21	18	14	1	0	54	17	26	18	14	0	75		
修了者数	—						0						0						14	19						
就職者数	—						0						0													
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	—						40						40						40							

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成26年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成27年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了者数																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

### プログラムの概要

東北地域に甚大な被害を与えた東日本大震災から一年以上が経過するが、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格回復には至っていない。さらには原子力発電所の再稼働を含めたエネルギー政策の大転換を議論せざるを得ない状況となっている。現在の状況は、我国の将来を決める決定的ターニングポイントに差し掛かっているといっても過言ではない。

本プログラムの人材養成目的は、我国や世界が直面する、**巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギーセキュリティなどの多様なリスクの発生メカニズムを理解し、複数の Science discipline を合目的に統合して、防災および減災などのための工学的・社会科学的システム設計ができるグローバル安全学分野のトップリーダー人材を育成すること**である。この目的のために、科学・技術・人文社会科学の研究者が連携したプログラムにより、「**安全安心を知る**」、「**安全安心を創る**」、「**安全安心に生きる**」という3つの視点からリーダーを養成する。

本プログラムでは、地球惑星科学・環境科学をはじめとする自然科学、土木工学、都市・建築学、機械工学などの工学、哲学・心理学・倫理関連分野を中心とした3つの学術コアとその複合領域において、人間を起点とした科学と技術の統合により、人類社会の持続性に寄与すると共に産業・社会システムの構築による安全安心な社会の創出や東北復興の先導を担える人材育成を行う。

### プログラムの特色

本プログラムの特徴は、本学に新設された**災害科学国際研究所の先端的な研究成果に基づいて、災害科学国際研究所、工学研究科、理学研究科、環境科学研究科、文科系諸研究科等が共同して**震災からの復興現場での活動や、世界的研究活動を通じて人材を育成することである。さらに人類社会共通の課題である気候変動や、原子力事故に代表される巨大大事故への対応、世界的なエネルギーセキュリティ問題等の解決に貢献できるリーダー人材の育成に取組みを展開していく。

本プログラムでは、学生の修学を「**グローバル安全学教育研究センター**」において実施する。センターでは、博士前期課程に進学した学生を、個々の研究室に配属するのではなく、センターに配属して、複数の指導教員やメンターによる指導体制をとり、前期課程において、基幹科目(人文社会学関連科目)を履修し、そのうえで確かなコア専門領域の知識を獲得すると共に、マルチディシプリナリ講義によるシェル領域の知識を得る。さらに、部局や専攻を跨いだ複数の学生が参画した Convergence ラボ研修などを行う。特に、防災・減災分野の中核講義である実践的防災学講義シリーズや研修は災害科学国際研究所の教員を中心に実施する。これにより、リーダーシップの獲得や組織運営の経験を積ませると共に、博士後期課程における広い視野にもとづく自立的研究を誘発する環境に学生をおく。進学資格審査を通過した学生には、国際性を磨くために海外でのインターンシップや企業での具体的なリサーチを実施する**スーパーインターンシップ**が用意されている。さらに、経営的な感覚を修得するプログラムやキャリアパス支援プログラムが用意されている。

### プログラムの優位性

#### ・全学的推進体制の構築

本プログラムでは自然災害を中心とした多様なリスクに対応できる人材育成を目指しており、災害科学国際研究所等の研究所群と理学・工学・文学等の理系・文系の研究科群が緊密に共同してプログラムを実施する体制として**グローバル安全学教育研究センター**を設置して学内組織の有機的・実質的連携体制を構築している。全学的には、**東北大学リーディングプログラム推進機構**(平成27年4月学位プログラム推進機構リーディングプログラム部門へ改組)を設置して、全学的視点からリーディング学位認定を行うなどの推進体制を構築している。

#### ・災害科学国際研究所を中心とした防災・減災教育体制

災害科学国際研究所においては、津波防災、津波工学、火山噴火防災、噴火予知、地震観測、地震予知、活断層、異常気象、防災建築などの世界最先端研究が行われる。本プログラムでは、本研究所所属教員の多くが担当者となっており、実践的防災学講義、セミナーや自然災害に関連したフィールド研修などを、兼務先部局である工学研究科、理学研究科、環境科学研究科などと共同開講し、本プログラム修了要件に関連した単位とする。これら一連の取り組みを通して、本プログラムに属する学生が「自然災害」「防災」に対して深い知識、経験を有することになる。さらに通常のカリキュラムでは機械工学(安全安心を創る)や社会学(安全安心を生きる)を専攻する学生が「自然災害」に関する深い知識や「防災科学」の経験を得る機会ほとんどないが、本プログラムによる災害科学国際研究所を中心とした取り組みによりそれらが初めて可能となる。

これらの取り組みから、国内外の巨大災害の被害軽減に向けて社会の具体的な問題解決を指向する「**実践的防災学**」と「**総合科学**」に基づいた**大学院教育を実施する全国初の大学院教育プログラムを推進し、東北復興の先導や安全安心社会の構築に貢献する人材育成を行う。**

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

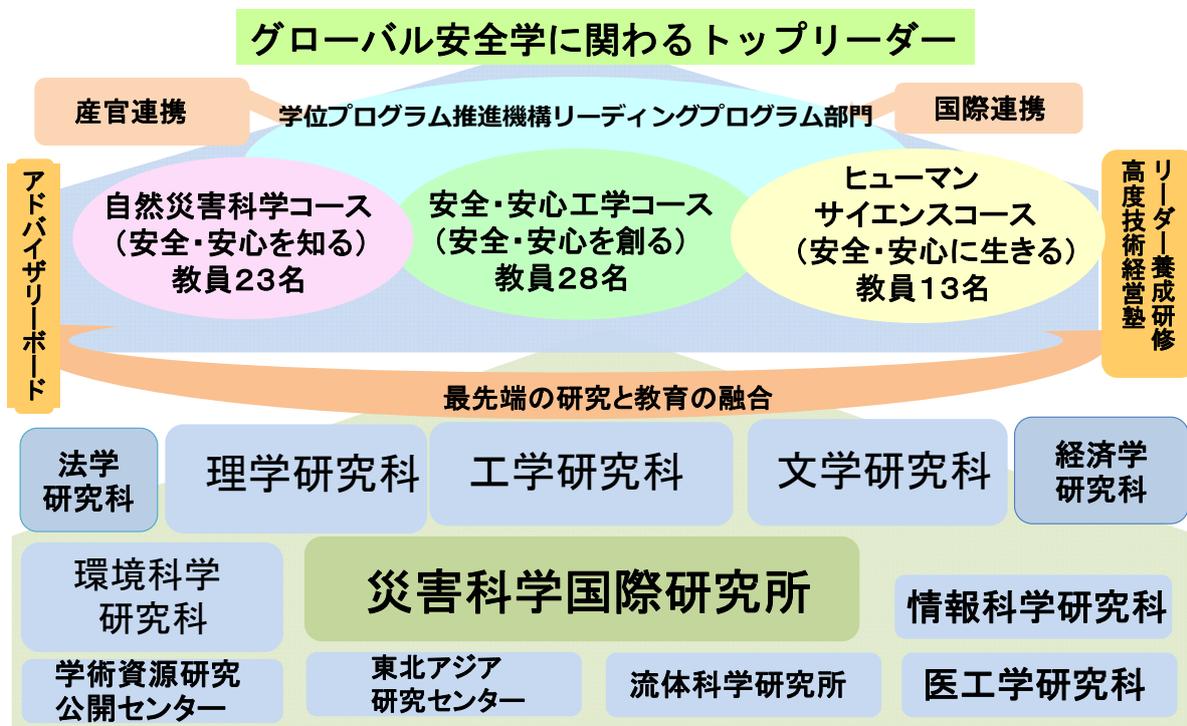


図1 3ユニットを中心としたプログラム推進体制

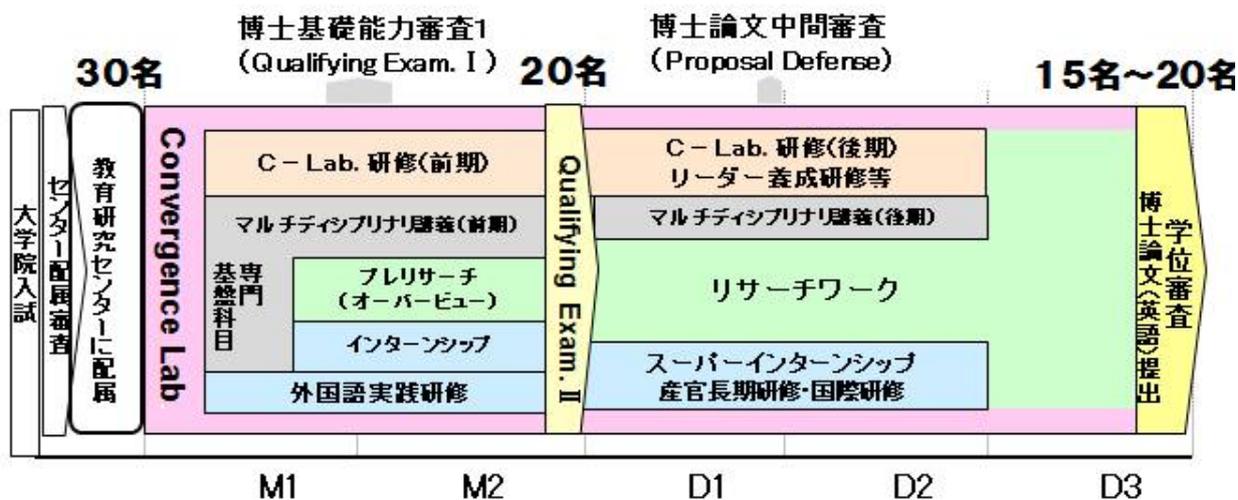


図2 グローバル安全学教育研究センターにおける教育プログラム（学年進行と審査時期）

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東北大学	整理番号	M01
プログラム名称	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	花輪 公雄	プログラム コーディネーター	湯上 浩雄

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### 〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

#### 〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、全学的な組織を立ち上げ、既存の研究科における学位との差別化が行われており、かつ本プログラムの優位性が明らかにされている。学生の自主企画活動において学生の成長が見られることも評価できる。今後は、本プログラムの修了生であることが広く社会に認知されるような工夫を講じることが望ましい。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性について、学生は、大学の研究者だけでなく民間企業への就職もかなりの程度視野に入れており、バランスの取れた将来展望が期待される。安全学の分野では、特に国際的な活躍を志向する学生が輩出されることが望ましい。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、本プログラムの趣旨に対する関係教員の意識統一が図られており、今後の着実な体制整備が期待できる。ただし、指導内容の客観的妥当性については明らかではないため、FDなどの実施とともに関係教員間での意見交換が必要であろう。

優秀な学生の獲得については、留学生、他大学出身者の割合も徐々に増え、多様性が出てきている。しかし、欧米諸国からの留学生が少ない点については一層の努力が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、本プログラムの評価に当たっては、長期的な視点が必要であるが、現行の水準を保持すれば問題はないと判断でき、評価できる。東北大学として研究に関する実績は十分に認められるが、安全学の分野では、他の学術分野と異なり、論文のインパクトファクターなどが客観的な判断の指標とはならず、研究成果の実践性が高いことが重要であるため、教育研究の成果をより実践的に反映させる仕組みを構築することが望まれる。

事業の定着・発展について、支援期間終了を視野に入れ、本プログラムを国際共同大学院の災害科学安全学分野へ移行及び発展させる計画がすでに構想されているため、特段の問題はないと判断できる。